

真野御陵のこと

JJ1SXA/池

真野御陵は順徳上皇火葬塚とも呼ばれており、佐渡市真野にあります。

順徳上皇は、1221年に起きた承久の乱に敗れ北条氏によって佐渡に配流となったもので、承久の乱は、朝廷が將軍実朝の後継問題に揺れる幕府を倒して政権の奪回を企て挙兵し失敗に終わった事件。

後鳥羽院(後鳥羽上皇・第82代天皇)は隠岐に、院を助けた順徳上皇(後鳥羽上皇の第三皇子・第84代天皇)は佐渡に流され、共に生きて都に帰れなかった。

佐渡に流された順徳上皇は、在島22年の1242年9月12日、46歳で崩御され、翌日火葬にふされ埋葬された、その跡に松と桜を植え目印としたのがこの火葬塚「真野御陵」です。

翌年侍臣の藤原康光によって京都の大原へ遺骨が移され、大原が正式に御陵と定められた。

現在の塚は、江戸時代前期の1678年に佐渡奉行曾根五郎兵衛が旧跡を修築したもので、現在は宮内庁の管理になっている、

御陵(ごりょう、古くは、みささぎ)は、天皇・皇后・皇太后・太皇太后の墓のことであり、ここに遺骨は無くなったが、宮内庁は大原御陵と共に御陵としています。

時の権力者は、鎌倉幕府であるが、以後色々の変遷の後、徳川の幕政が長く続き、その徳川幕府も明治維新で倒幕され、ようやく天皇家の権限が復活し、明治天皇が最高権力者の地位につくこととなった。

日清戦争、日露戦争に勝ち、欧米列強と肩を並べる大国となった日本は、その後戦争続きで、第一次世界大戦では、戦勝国となったものの、続く第二次世界大戦は、原爆を落とされ、敗戦国となり、昭和天皇の人間宣言と新憲法のもと、皇室は政治の世界から一步離れることになったのはご存知の通りです。

国民に親しまれる皇室ですが、天皇制反対を唱える人達がいるのも事実です、学者(大学教授含む)、作家、文化人と称される人、或いは芸能人、その他、それも結構有名な人達です、以下に天皇制反対論者を一部列举します(wikipediaによる)、大江健三郎、野坂昭如、永六輔、中山千夏、佐高信、天野恵一、小森陽一、花柳幻舟等の名前は、良く知っている、あるいは聞いた事があるのでは無いでしょうか?まだ他にも大勢いますし、既に故人となった人も多いです。

これ等の人の大部分は、左翼(マルクス・レーニン主義信奉者)の人が多く、共産主義信奉で親中国、親朝鮮の人も含まれます。

この人達にすれば、御陵など眼中に無しなのでしょう、大変残念に思います、私は、我が故郷の「真野御陵」の荘厳なたたずまいに、何度お参りしても、厳粛な気持ちになりますし、日本人として天皇家の繁栄を祈らずにはられません。